追手門学院大学 校友会会報

第71号
平成23年（2011年）3月1日
発行者 〒567-8502
茨木市西安威2-1-15
追手門学院大学校友会
会　長　平野　昌雄
電 話 072-643-6135
FAX 072-643-6099
URL http://ogu-koyukai.com
E-mail info@ogu-koyukai.com

キャリア開発支援について

校友会会長
平野　昌雄

近年社会情勢の悪化等により、卒業予定者の就職内定率が思わしくありません。既卒者の就職未決定者も大量に発生しているのが現状で御座います。

このような状況下、校友会ではキャリア開発支援委員会を起ち上げ、在校生の就職支援はもちろんの事、既卒未就職者の為のセミナー等を含め、ひろく母校支援活動を実施しています。

キャリア開発支援並びに国際交流支援をはじめとした母校支援の一助に、校友の皆様方の温かいご理解ご協力をお願いたしたく存じます。

同封のプロフィールシートに、お力添え頂ける内容をアンケート式にお尋ねさせて頂きますので、お一人でも多くの方がアンケートにお答え頂き、既にご提出頂いた方々も変更等ございましたら再度ご登録頂ければと願っております。

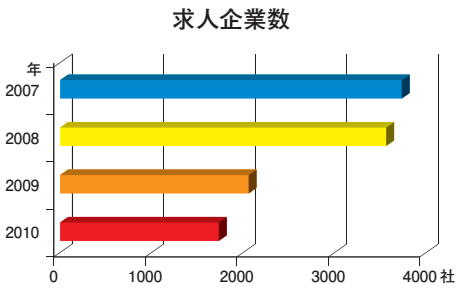
プロフィールシートにて、ご提供頂きます個人情報は大学校友会の活動にのみ使用いたします。用紙にご記入のうえ、返信用封筒に折り4月30日までにご返送頂きたくお願い致します。

キャリア開発部の現状と取り組み

追手門学院大学
キャリア開発部長
植藤　正志

ご承知のごとく就職環境は厳しさを増しており、本学に届く求人数は、昨年度に続き、12月末現在で対前年度比10・6％の減少となりました。カウンセラーも増員して休日も徹底的な電話連絡を行い、学生に求人紹介を行ってきました。結果12月現在の就職率は71・0％とほぼ全国平均並となっており、苦戦を強いられています。

求職には自分を売り込むべき能力、方法、場所を明確に認識し、理解することが必要になります。本学ではこの3つの項目を体系的に実現するために「追大キャリアデザインプログラム」を作成し、実行しています。



具体的には、就職ガイダンスを通して、就職活動全体とそのプロセスを理解することから、就職活動における売り込むべき方法を学生に助言し、支援しています。個別企業分析や業界分析と学生の能力と資質を結合させることから、ミスマッチを防ぎながら学生の売り込むべき場所を選択・決定することを指導しています。

サテライトオフィスで卒業生の就職指導

追手門学院大学
キャリア開発課長
立石　正彦

本学では、卒業生の皆様に対し、転職支援、就職支援を行っています。卒業生専門のキャリアカウンセラーを配置、就職支援の強化を図っています。卒業生支援の拠点は「サテライトオフィス大手前」と「サテライトオフィス茨木」です。更に今年度、卒業生の就職支援のホームページを立ち上げ、セミナー等各種情報を提供しています。サテライトオフィス大手前では、定期的に卒業生を対象としたセミナーや企業説明会を行っており、そこから内定に結びつく方も少なくありません。是非ご活用ください。

http://www.shukatsu.otemon.ac.jp

サテライトオフィス大手前　相談室

キャリア開発支援のお願い

学校法人 追手門学院
理事長　大木　令司

平素は、大学並びに学院に対しまして、ご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

昨年の「大学と校友会との協議会」におきまして、大学より、昨今の就職事情に鑑み、校友会に対してご支援・ご協力をお願いいたしましたところ、早速に、マンプロフィールデータの収集やキャリアガイダンスへの講師派遣、各学校での講演会開催等へのご協力をいただきましたこと、この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。中でも、大学卒業生でもある植村直己冒険賞を受章された、23期の中西大輔さんのキャリアガイダンスでの講義は、過去例を見ない厳しい就職状況の中で、奮闘する学生諸君に大きな勇気を与えていただいたと確信しております。

今年は卯年であります。世間では、卯年は『跳ねる』と申しますが、現状の就職状況を見る限り、なかなか大きく経済が跳ね上がることは難しい状況にあります。

大学では、キャリア開発部を中心に、学生支援に全力を尽くしておりますが、校友会におかれましても、引き続き、現役学生や既卒学生への就職支援、特に、校友会会員が経営されている会社やお勤め先の会社への就職斡旋・紹介、また、キャリアガイダンス等への講師派遣等につきまして、ご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

「母校は母港」

学校法人 追手門学院
学院長　竜田　邦明

追手門学院大学は、本年、創立45周年を迎える。それは、いかなる苦難をも乗り越えてきた歴史であり、必要とされてきた歴史でもある。その間、大学校友会は大学の発展に貢献し、卒業生のみならず在校生を応援してきた。大学は総合学園である追手門の最高学府であるので、その校友会は学生の就職やキャリア支援のみならず、オール追手門の核として、幼稚園から高校までの卒業生をも、折に触れて支援してきたし、これからも支援していただけるように願っている。

校友会は、これまで、各支部において総会・懇親会などを開催して、大阪以外の地区の卒業生とも交流を深めてきた。さらに、上海万博への参加を機に、上海師範大学との学術交流協定の締結にも尽力されるなど、精力的に活動を続けている。これらの事業成果はまさに特筆に値する。

また、母校は母港であり、港に戻らない船はいつか沈む。したがって、ホームカミングデイだけでなく、卒業生が、常に最先端の知識を吸収し、エネルギーを補給するために、母校を訪問することを期待している。

各人が、追手門学院の教育理念を再認識して愛校心を高め、社会において有為な人財として活躍してくれることが、大学および校友会の望みでもある。卒業生と大学とのインターフェイスである校友会の存在意義がそこにある。

校友会活動について

追手門学院大学
学長　落合　正行

校友会から日頃大学へさまざまな形でご支援頂いており、誠にありがとうございます。

校友会は、会員相互の親睦と大学との関係を密にし、大学の発展に寄与することを目的としており、実際校友会からは入学式や卒業式はもちろん、将軍山祭など支援をいただき、また行事の度に様々な支援をいただいております。

学生にとって深刻な問題の一つが、就職の問題です。就職は、社会的状況にも大きく左右されます。従って、就職の状況は入学時とは全く違った状況も生まれ、学生個々の資質の問題だけではなく、そのときの特に経済状況にも大きく左右されます。近年、まさにこのような経済状況の変化もあり、学生にとって就職が厳しい状況にあります。校友会では、このような状況を鑑み、また大学との話し合いで、２０１０年度から重点的に就職支援に取り組むことを決めていただき、校友会のメンバーに声をかけていただき、学生の就職に様々な支援をしていただきました。お陰様で、今年度の就職状況は、昨年度に比べて随分改善をいたしました。

また、45周年の年を最終年として国際交流年と銘打って国際交流活動を活発にしようとしております。この点に関しても、校友会では留学生への支援もしていただいております。留学生にとって、大変意味のある活動をいろいろとしていただき、大学の授業だけではなく、日本での大学生活を充実させることとなっております。

このように、校友会からは、積極的に大学への支援を新たにしていただいておりますことは、大学にとっても大変ありがたいことだと思います。

今後とも、校友会のご支援を賜りますようにお願いいたします。

追手門学院大学　サテライトオフィス大手前

キャリア開発支援 母校支援活動に ご理解ご協力を

校友会キャリア開発支援委員会は、主にキャリア開発部と協賛し、キャリア開発支援はもちろんの事、広く、母校の支援に取り組んでいます。

母校の為に、志ある校友の方は、校友会ホームページをご覧いただき事務局を通じ、キャリア支援委員会までご一報ください。

プロフィールシート・エントリーシートにご記入いただければご相談ご案内させて頂きます。講演会の開催や在校生・後輩たちに対するカウンセリングや相談など、また、新たな支援をご提案頂けましても結構かと存じます。

この母校支援の取り組みは、大手前と茨木の両追手門学院中高等学校への特別講座開催へと発展させています。

母校・後輩・在校生達のためにも、母校支援活動・校友会活動に、ご理解ご協力ご支援賜りますよう　宜しくお願い致します。

キャリアガイダンスに参加して

大塚　高司（20期生）

キャリアガイダンスで、久しぶりに大学生の話を聞かせて頂きました。

今の学生は、クラブ活動よりバイトの人が多いし、将来に対して大きな夢を大学生になったらもてなくなってしまっているのではないか、昨年末内定している大学生が60％台、これは私たち大人の責任ではないかと思ったりしています。でも、大学時代共に学び、遊んだ仲間は、社会人になっても永遠に良き相談相手であり仲間であります。今は、良き信頼関係を築いて欲しいものです。

私は、就職活動では、如実に他の大学との差を感じガッカリした思いがありました。でも、大企業に入って肩身の狭い生活より、中小企業に入って伸び伸びと自分の意見が反映され、生きがいを感じる事も一つの選択肢であります。

私も、社会人になって（当時は国会議員秘書）周りは優秀な人ばかりで、当初は困惑しましたが、周りの人達に勝る事はないかと考えました。それは、仲間の数でありました。手伝いの人を集めないといけない時、それは何よりも大切な友情でありました。そういった事が自信につながり努力を重ねて衆議院議員になることが出来ました。

今も、追手門学院大学を卒業した事を誇りに思いますし、仲間に感謝しています。皆さんもその事を誇りに思い社会人になったら、「これだけは、誰にも負けない、譲れないもの」をもち続けて下さい。必ず自信となって成功します。

皆さんが、あらゆる分野で大成される事を祈念申しあげます。

キャリア開発セミナー 理事長講座に 参加して思うこと

有澤　孝子（8期生）

この度後輩の皆さんと授業を通してお話をさせていただき、現在の大学生が置かれている厳しい現状を改めて知ることができ、議員の立場で、また皆さんと同じ「追手門学院ファミリー」の一人として何ができるのかということを強く考えました。

自分自身の経験から、議員になることなど考えてもみなかった私が、選挙に立候補した時、多くの学友が応援に駆けつけ大きな支えになりました。このことから一番大切ではと思うのは、「追手門学院で培った仲間との関係」を大事にすることです。

私の時代はともに学び活動した学友は多く、卒業後もおりにふれ連絡を取り合っています。パネラーとして参加させて頂き、人生には誰にでも「出会い、チャンス、タイミング」というものが有るとお話させて頂きました。それをどう見極めるか、どう使うか

男性は長年様々な方法で人脈を築き上げ、社会で役立ててきましたが、女性の社会進出の時代、女性の方

（次ページに続く）

もどのように人脈を作るか、そのノウハウやマニュアルを持つことが重要です。

大学で学んだ知識だけを社会へのパスポートとしてとらえるのではなく、学生時代に築いた人間関係も社会での大切なカードであると認識することも必要です。

将来校友になられる後輩の皆さんの、社会でのご活躍を心よりお祈りご期待いたします。

キャリアガイダンスに参加して

辰巳　佳子（20期生）

母校のキャリアガイダンスのパネラーとして参加し、特に感じたことは、元気のある学生が少なく、光る個性が感じられない。聴く態度ができていない姿が目立った学生が多かったことです。メモを取って聞くような学生は見受けられず、話の途中にペットボトルのお茶を飲む、携帯を触っているなど、「もし就職活動でセミナーの場でそんな行動を取る学生がいたら、企業は、もちろん採用しないですよ！」と注意をしたくなりました。

私は、現在実際に、採用の仕事に携わっているので、とても気になりました。「人の話を聞く姿勢」とは？何かが分かっていないまま、学生生活を過ごしていたのでしょう。

就職すると、どの企業もほとんどが新入社員研修を行います。社会人としての基本動作である、挨拶、身だしなみ、電話応対、メモの取り方、報告の仕方など、大学では成績にも全く関係のない項目を学び、それによって入社二、三年は評価され試されるわけです。だからこそ就職活動の中で、既に基本動作ができる人は際立って採用されやすいのです。自分が望む大企業でなくても、正社員として「あなた」という人間を必要とされる会社に入ることです。自分はもっと良い会社にと思っても、受け入れてくれたところが自分の実力です。その組織中でゆっくりと航路を見つけることも必ずできるのです。

「ご縁」

鈴木　圭史（29期生）

「15年ほど前に私は席についてメモを取っていました。いやー、なつかしい。みなさん側ですよ。」

ご縁があり、私は追大校友会に参加をさせて頂き、キャリア開発（いわゆる就職支援）という活動に関与しています。第29期生として追大卒業後、社会保険労務士という資格を取得し、民間企業で約8年勤務したのち自身で起業しました。その辺の職業経験等を活用して母校への支援事業をさせて頂いたのが冒頭の第一声となります。着手したのは「社会人の基礎A」という後期2単位の科目に「学外講師による講演」という講義が4コマあり、そのうちの1コマ「会社で役立つお金や法律の話」というお題で講義をしたのです。何というか母校の教壇に立つというのは非常に感慨深いものがあります。当初は厳格に法律論の話をする予定でしたが、その他のコマで法律論はお話をされているようなので私の職業経験の部分に時間を費やしました。最近の学生は学習意欲が下がったなどの事柄を耳にすることが多いですが、なんのことはない。私のころとそんなに変化がないように感じました。

「高大連携」について

追手門学院中高等学校
校長　佐々木　実

周知のように、日本社会は、私たちが今まで経験したことのない「人口減少」社会を迎えています。「ジャパン・シンドローム」と名付けられ、世界から注目されているほど、他に例をみない様相を呈するとされています。そして、情報化・国際化・グローバル化という大きな変革の時代でもあり、また現下の世界の状況は地殻変動を起こしている感があります。

こうした状況を踏まえ、日本社会の在り方も教育の方向も大きく舵を切る時機にあり、変動する社会・経済状況に対応する「教育」の在り方が模索されています。

佐々木校長を囲み意見交換会

10年後、20年後の社会の「現実」を生きる生徒・学生たちに対し、「将来に向けた」教育、つまり社会の変化への主体的対応力など「生きる力」としての資質や能力を涵養する教育が求められています。

「将来に向けた」教育として、私学であればこそ、さらに学院教育理念「独立自彊・社会有為」を基軸とした人財育成教育を推進していく必要性があります。

それを具体化して、学習・生活・進路指導、HR・行事・クラブ指導などすべての教育活動の根幹に、「独立自彊・社会有為」の人財

育成を据えて取り組むことが大切です。

大学優駿ホールでの授業風景

また、「総合学園」の利点を活かし、「高大連携」プログラムとして、高大共通の教育テーマを深めていき、系統化した「高大連携」プログラムとして充実を図ること。この「学び」は、生徒たちに、より「将来に向けた」力を身につけさせるものとなります。

現在、「高大連携」事業としては、高校2年生を対象に、総合学習の一環として、「追大講座」を開設しています。この講座は、追手門学院大学の5学部の先生を講師として、大学の授業を通して、「学問」への導きを意図としていますが、高校生にとりましては、各学部の内容を知ることができ、知的関心が広げられるものです。

それに加えて、この4月からは、高校3年生の希望者を対象に、総合学習の一環として、「高大連携」講座を新設します。基本テーマは、メディアで世界を知り、「志を立て学ぶことの大切さを考える」ことです。この授業は、追手門学院大学への進学を志望している生徒を中心に構成されますが、この「追大授業」を契機として、「追大コース」の設置を考えております。今後さらに、「総合学園」としての在り方を検討し、学院「一貫」教育の可能性をより志向していくことが大切ではないでしょうか。

また、大学校友会からは、親身なご配慮をいただき、中学校全生徒を対象に、校友会会員である中西大輔氏に「世界130ヵ国自転車旅行」の講演が実現いたしました。生徒たちの世界を豊かに広げていただけたことと思います。

中西大輔氏の講演

追手門学院
大手前中・高等学校
校長　南　登章生

この度、大学校友会の平野昌雄会長はじめ、キャリア開発支援委員会の皆様から、追手門学院大学ご卒業で校友会会員でいらっしゃる中西大輔氏をご紹介賜り、去る12月20日、2学期の終業式後の10時より、本校63期生中学2年生158名に、「夢・人生の宝物」と題して1時間余のご講演を頂きました。

中西大輔氏の視聴覚教室での授業

中西氏は、平成10年7月から約11年3ヶ月にわたる自転車での130カ国走破、走行距離約15万キロに及ぶ貴重な挑戦により、昨年度6月には植村直己冒険賞を受賞、昨年度末にはご体験を綴られた著書『世界130カ国自転車旅行』が文春新書から発刊されるなど、昨今多くの貴重なご講演をこなされる大冒険のご経験者。

中学2年生は、夢・希望に燃える盛んな成長期であり、約1時間のご講演から、実体験に基づいた写真による世界の珍しい映像や氏の語りに目を輝かせ、楽しく面白く話を聞かせて頂きました。

南校長を囲んで

講演後、質問のタイムでは、「費用はいくらかかりましたか」「怖くありませんでしたか」「どうして自転車で世界一周をしようと思ったのですか」「食べ物に困りませんでしたか」など、多くの興味から、疑問や質問の機会も得て、世界への思いを馳せる貴重な体験をさせて頂きました。その後、全生徒がご講演の感想を書き、送付申し上げました。

今後、このような機会をきっかけとして、本学院の「総合学園」としての良さをより一層生かせるよう、生徒達のご支援をお願い申し上げる次第です。

本校では、教育改革が進み、「中学教育が大学入試の礎」の考えのもと、「先取りせずじっくり取り組む定着学習」により、生徒の自信が生まれ自主学習となり、模擬試験の数値もアップし、「温かく伸ばす追手門大手前」と評価されています。

今年の大学入試の結果は、貴誌の発行に間に合いませんが、高成果が望めます。

国際交流年の報告

上海万国博（日本産業館）に参加

昨年の上海万博日本産業館ＪＡＬステージで「上海万博 追手門ウィーク」が開催されました。

大学からは少林寺拳法部、中国武術部、吹奏楽団、チア・リーディング部の４団体が出演し、校友のアメリカ民謡研究部ＯＢ４名も参加いたしました。

各団体は、日本との環境が違う中で日頃の練習の成果を発表して、観衆から盛大な拍手を得ていました。また、司会進行は日本語が堪能な中国から母校への女子留学生５名が担当しました。

上海師範大学と提携調印

10年10月21日追手門学院大学と上海師範大学は互いに提携することで合意し、上海師範大学において調印式が行われました。両大学は、今後留学生の交流をはじめとして、様々な分野で提携してゆきます。この調印に際し、平野会長をはじめ、校友会顧問の佐藤良和氏らにより校友会として支援・協力したことをご報告いたします。

留学生をバスツアーに招待

参加した学生諸君に感想を聞きました。

上海師範大学李進学長と追手門学院大学落合正行学長

バスツアーに参加して

経営学部マーケティング学科　李　花

このたびは、秋の京都日帰り研修旅行させていただいて、とてもいい経験になりました。

車の酔いが激しい私にはバス旅行なんか考えられないことでした。でも、日本の文化に触れることができるということで、車酔いの薬を飲みながら、参加しましたが、ほんとうに行って良かったと思いました。

最初についたのが、太秦映画村だったです。太秦映画村では、外国人でも楽しみながら時代劇や日本の伝統工芸を学ぶことができました。また、日本の伝統的な着物を着た方や太秦映画村で活躍している排優さんといろんなポーズを取りながら写真が撮れてとても楽しかったです。太秦映画村では、楽しいことだけではなかったです。聞くだけでも、寒気がするお化け屋敷もありました。作りものだから、大丈夫だと思って入ってみましたけど、あまりにも恐くて汗だらけで出てきました。次に行ったところは、京都でも一番きれいなところ、嵐山でした。紅葉はまだだったけど、相変わらず綺麗なところでした。

嵐山ではもう、少し観光したかったけど、時間の制限でゆっくりはできませんでした。おいしい昼御飯が食べられて良かったです。

最後に行ったところは和菓子を作って販売するところでした。そこで、和菓子作りの体験をしました。最初にはなかなか綺麗につくれなかったけど、なんとか形になりました。自分で作った和菓子を食べてみましたが、普段食べた和菓子よりおいしかったです。帰りバスの中でのカラオケは、一日の疲労がとれました。

今回秋の京都日帰り研修旅行のおかげで、友達からお礼のあいさつをもらいました。こんな情報を伝えてくれてありがとうと。

日本の文化に触れあって貴重な体験をさせていただいて本当にありがとございます。

追手門学院大学校友会　プロフィールシート

平成　　年　　月　　日現在

会員番号			
ふりがな			
氏名		電話番号	
旧姓		携帯電話	
ふりがな			
住所	〒		
E-mail（PC）	@	E-mail（携帯）	@
期生		学部	
学科･専攻			
クラブ名		ゼミ名	
勤務先名		業種	
勤務先所在地		勤務先電話番号	
勤務先URL		部署	

住所等に変更が	①　あり	②　なし

次に列挙する校友会主宰（在校生・卒業生向け）のイベント等についてご協力を頂けますか？		
社会人としてのキャリアアップセミナー講師	□ 可	□ 否
キャリアアップに関する個別のアドバイザー	□ 可	□ 否
会社訪問・会社見学のご協力	□ 可	□ 否
プレインターンシップへのご協力	□ 可	□ 否
インターンシップへのご協力	□ 可	□ 否
学生アルバイトの受け入れ・ご採用	□ 可	□ 否
新規学卒者の受け入れ（就職支援）のご検討	□ 可	□ 否
大学既卒者の受け入れ（就職支援）のご検討	□ 可	□ 否
留学生の観光などのご協力	□ 可	□ 否
留学生の受け入れ（ホームスティ等）のご検討	□ 可	□ 否

■ご職歴・得意分野・その他（ご協力内容）

■保有資格・趣味・社会活動など

当該プロフィールシートにて得た情報は大学校友会の活動においてのみ使用致します。

郵送の場合の「のりしろ」①

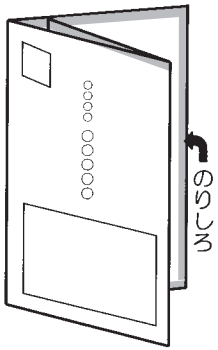
郵送の場合の「のりしろ」②

郵送の場合の「のりしろ」①

郵送の場合の「のりしろ」②

のりしろ③

【郵送の場合】
二カ所の点線で「山折り」し、
同番号どうしの「のりしろ」で糊付けしていただき
封筒状にしてポストに投函して下さい。
差出有効期限内は、切手不要です。



FAX. 072-643-6099
番号の押し間違いにご注意下さい。

567-
8502
大阪府茨木市西安威2−1−15
追手門学院大学校友会
電　話　〇七二−六四三−六一三五
ＦＡＸ　〇七二−六四三−六〇九九

のりしろ④

のりしろ⑤

〈山折り〉

料金受取人払郵便

茨木支店承認
4088

差出有効期限
平成24年８月
31日まで

５６７−８７９０

（受取人）
大阪府茨木市西安威
二丁目一番十五号
追手門学院大学校友会
事務局（庶務課）行

〈山折り〉

京都バスツアーを終えて

国際教養学部
英語コミュニケーション学科
中西　由佳

京都バスツアーでは早朝から、いろいろな観光地に連れて行っていただき、とても有意義な1日を過ごすことができました。また、内容も盛りだくさんで、日本人の私ですら行ったことがない太秦映画村や、経験したことのない和菓子作りと、とても楽しめました。

ただ、私はアメリカからの留学生と一緒に行動していたのですが、そのメンバーとしか交流することができず、少し残念でした。また文化を体験するという意味では、日本を留学生は感じることができたと思いますが、もう少しいつもは関わることのできない人たちとの交流があってもよかったのかなと感じました。

留学生たちは、1日バスに乗って自分では行きにくいところや、体験しづらいことが経験できたということで、喜んでいました。また嵐山では、はじめて食べる料理に、驚いたり眼で楽しんだりしていました。

このようなバスツアーが京都という文化的な都市へ行くことだけでなく、また大人数でなくても、様々な人との交流の場として今後も開催されていけばいいなと思いました。

今回はありがとうございました。

留学生とともに

追手門学院大学
国際交流教育センター
事務長補佐　井上　和子

日頃、留学生とは、ゆっくり話す時間もなく、バタバタと過ごしています。留学生は、勉強やアルバイトなどで忙しく、毎日の生活に精一杯です。そんな中での研修旅行は、窮屈な毎日を忘れ、日本を楽しむ良い機会となったようです。

私たちは、人と人のつながりの中で毎日暮らしているようなものです。今回の研修旅行には、日本人学生も参加してくれました。とかく、留学生は留学生同士固まってしまい、なかなか日本人の友人ができにくいのですが、このような行事を通して、日本人、留学生の隔たりない交流がますます深まることを期待しますが、卒業すると留学生は連絡先もわからない音信不通の状況にあります。これを機会に校友会の活動に関心を持ってもらい、さらには、大学への思いが深まってくれればと願います。卒業しても、追手門学院大学との縁が切れることのないように、海外での同窓会組織づくりを実現すべく取り組んでいるところです。

交換留学生にインタビュー

2010年12月14日（火）

今回はインド・オーストラリアからの留学生に大学生活等について聞きました。

リッディ・バーティアさん、ウルビジャ・シャーさんの両名で短期留学のインドのグジャラート大学在籍の学生です。本大学を選んだ理由については「交換制度提携があり情報入手が容易」であったと答えてくれました。

大学生活で困っていることは「ベジタリアンなので食堂での食事に困る」、「友人を作るのが予想以上に難しい」との返事。日本の印象については親切な人が多い、インフラが大変良い、自然（四季）が美しいをあげてくれました。在校生に対しては英語を更に勉強して英会話を多用して友人の輪を広げる努力をしてほしいとのコメントがありました。

次に、オーストラリアからの交換留学生のゾイ・バーバーさんにインタビューしました。ゾイさんは本学と提携関係にあるオーストラリアのサンシャインコースト大学に在籍しています。

生活上困っていることは「鉄道の定期券が購入出来ないのが残念」と答えてくれました。将来の展望については「博士号を取りたい」「日本で英語を教えたい。出来れば教授になって教えたい。」と話してくれました。将来、本学の教壇に立

つかも知れません。
　インタビューに御協力頂いた国際交流教育センターの福田さんのお話をご紹介します。

『Japan Program at 追手門』開始!!

追手門学院大学
国際交流教育センター
係長　福田　節夫

　2007年の海外交換留学制度提携校は5校でしたが2010年はヨーロッパ3校・北米3校・オーストラリア4校・アジア4校に増え、2011年には上海師範大学が新たに加わります。今後は台湾、スペインの大学との提携も計画中です。留学派遣前には春休みを利用して10日間の英語集中研修を行い、春学期にはTOEICスコアアップ講座を実施しています。将来的には、TOEICスコア600点以上の語学能力を持つ学生が多数出て、本来海外留学に求められるTOEFL向けの講座に移行していければと考えています。中国語の事前研修も2011年度から開始する予定です。現在本学では1年間の交換留学プログラムの可能性も模索していくことも今後必要だと思います。提携校からの受入交換留学生に対しては、従来日本語コースだけを提供してきましたが、今年度より日本の歴史、ビジネス、文化等を英語で講義する「Japan Program at 追手門」も開始しました。

支部便り

東京支部総会報告

　東京支部の22年度定例支部総会が、平成22年11月6日（土）13時から、有楽町駅前の東京フォーラム内の東天紅にて開催されました。
　参加者が年々増え、今年は23名が集いました。
　学校法人からは、大木理事長、中嶋常務理事が、本部からは平野会長他多数のご参加を頂きました。
　当日は、奇しくも秋の文化勲章の発表まもない時で、本年度紫綬褒章を受章されました第1期卒業の宮本輝先輩の明るい話題から始まりました。平野会長からは、8月に母校が参加した上海万博での多種多彩なプログラムの御報告を頂きました。

　さらに、来る5年後の大学創立50周年記念行事に向けての各支部の発展と協力要請のお話がありました。
　懇親会においては、参加者の皆さんから自己紹介と近況報告をいただき、名刺交換や先輩方からの温かい励ましのお言葉と突っ込みで賑わい、和やかな大宴会となりました。第1期卒から29期卒までの幅広い年代層の集いとなりました。
　その後、二次会を銀座に移し白熱した議論が繰り広げられ、今後の東京支部の活性化策を再確認しました。
　卒業後、大阪と東京を拠点としてお仕事をされている方がたも含めると、東京支部には約500名の会員がいます。今後も秋に定例総会を開催致します。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

（支部長代行　春名　弥生）

九州支部総会案内

　九州支部の総会を次の通り企画しています。
　詳細につきましては、後日連絡いたしますからお待ちください。

開催予定　6月上旬
開催場所　福岡市中央区
今後、出欠等各種連絡を取りやすくする為、支部専用のメールアドレスを設定しましたので、ご利用ください。
kyushu@ogu-koyukai.com

（支部長　岩崎　陽一）

京都支部の集いを開催

　11年2月26日（土）京都私学会館において開催されました。
　この集いの目的は、親睦と情報交換の共有の場にあります。人に伝えたい事、聞きたい事、自慢したい事、仕事のストレス発散など、皆さんと楽しい時間を共有いたしました。
　今回は、15期生の森田吉人氏（日本プロスピーカー協会）により「人生（仕事）の思考と行動」と題した講演を聞き、終了後有志により懇親会を開きました。
　今後このような支部の集いを定期的に開催してゆきます。（支部長　岡　正樹）

大学アワー金沢大会

　10月17日ANAクラウンプラザホテル金沢にて開催されました。

恩師を訪ねて(9)

名誉教授　天野　元

初めてアメリカに行ったのはドルが360円の時代であった。神戸からサンフランシスコまで2週間の船旅で、まわりは外国人ばかりだった。早口の英語はわからなかった。上智大学で勉強していてシアトルに帰る留学生がそんな僕を助けてくれた。サンフランシスコに着くと、直前に堀江謙一氏が単独ボートで太平洋横断に成功していたので、「君もボートで来たのか」という質問攻めにあった。「いや、僕のはあれより少し大きかった」と答えると、爆笑の渦に囲まれた。

南カリフォルニアのカレッジは小規模で男女共学だった。寮生が僕に大学生活のコツを教えてくれたりした。夜、図書館を出ると、生協で彼らとコーヒーをよく飲んだ。最初の一杯は10セント、リフィルは5セント。そこで、大量の宿題に悪態をついたりしていると、たいてい15セントが消えた。当時、日本国外に持ち出せるドルは上限が500ドルであったので、やがてこの悪癖は経済的理由でストップした。秋になると、土曜の夜はアメフトの試合をスタンドに腰かけ、ゲームのルールもたいして知らないのに大声で応援した。

本を読みタイプライターをたたく生活が2年続いた。1964年の夏、ロサンゼルスから神戸に向かった。船は移民船ブラジル丸で、神戸港からは友人のトラックで完成したばかりの名神高速を飛ばし、京都に帰った。その秋、東京オリンピックがあった。ドルはいまだに360円であった。

しばらくして英文科の先生になり、キャンパス内の明徳塾に隣接するゲストハウスに住みだした（今はどちらも姿を消した）。教師生活の初日は2期生の入学式当日で、1号館から体育館まで桜が満開の長い坂道を歩いた。そんなわけで僕はいわば2期生のようなものだ。

現在エスカレーターのある山を下り、グラウンドを横切って帰るとき、運動部がよく練習をしていた。グラウンド西側の部室にはジェームズ・ディーンの横顔が達者な筆致で描かれていた。やがて彼らとアメフトのまねごとをするようになった。次にアメリカに行ったのは1971年で、明徳塾の塾生2人とバスでアメリカを一周する貧乏旅行だった。すでに飛行機の時代になっていたけれど、ドルは依然360円であった。翌年から3年にわたって毎夏、ビジネスマン、学生を連れて2ヶ月アメリカに出かけた。コロラド大学での研修後、アメリカ国内をチャーターバスで回った。

その最後の年、僕自身コロラドの大学院で1年間勉強する機会に恵まれた。ドルは270円になっていた。1年後に帰ってきてしばらくすると、僕はゲストハウスを引き払い、阪急沿線の中古マンションに住みだした。70年代の最後、若い同僚Aがアメリカ研修に出発した。ドルは170円。80年代になってしばらくすると、別の同僚Bが研修に行った。ドルは240円あたりで揺れ動いていた。Bと僕は僕たちのタイミングの悪さを嘆き、不運を呪った。

95年、ドルはそれまでの最安値をつけた(79円75銭)。翌年、5号館が完成し、僕はその最上階の研究室に引っ越した。秋、ゼミ生たちと夕方おそくグラウンドに下りると、どこのクラブでも選手たちの体から湯気が立ちあがっていた。最初期の学生たちが自主的にクラブを作り、次の者がそれをリレーし、今また目の前の選手たちがそれを継続している。その姿を目にすると、僕も十分リレーの役割を果たした—それでいいのだ。僕の次のステップに進もうという気持ちが強くなった。2006年の3月末、僕は退職した。

この秋、久しぶりにキャンパスを訪れた。「さくら径」を進むと、新しくなったグラウンドが目に入った。5号館を上がった。出版されたばかりの本、『ゴールドラッシュの恋人たち』をお世話になった先生に献呈し、7階の庭に向かった。そこから見るとナイター用のライトの下、5ヤードごとに色調が変わる人口芝生の上で選手たちが練習をしていた。目の真下では吹奏楽部がマーチの練習をしていた。

その夜、ドルは80円ちょっとを記録していた。

完成した人工芝グラウンド

ガンバ大阪VS湘南ベルマーレ
11月23日 追手門学院スポンサーデー開催

ガンバ大阪と追手門学院大学は、2010年2月にパートナーシップ協定を締結し、社会貢献活動の一環として万博記念競技場で学生によるエコボランティア活動を推進してきました。

また2011年4月からは、追手門学院高等学校でガンバ大阪ユース選手の受け入れが始まります。このように世界を目指すガンバ大阪と学院の協力関係のなかで、11月23日に「ガンバ大阪VS湘南ベルマーレ」戦で追手門学院スポンサーデーを開催。10月30日開催の大学ホームカミングデーでは、大学から校友会にペアで25組の観戦チケットが提供され、じゃんけん大会でチケットをプレゼントしました。

当日は学院をあげて取り組み、試合に先立って、午前中には学院大手前高等学校及び大学サッカー部の協力のもと、ガンバ大阪ジュニアコーチの指導で、朝日新聞社と共催しファミリーサッカースクールを開催。

午後からのJ1公式戦には、フェアプレイフラッグベアラー、エスコートキッズを追手門学院小学生が努め、また競技場内外では大学生に混じって、学院中・高等学校の生徒がエコボランティアを体験しました。また観客には大学からガンバ大阪とコラボレーションしたオリジナルクリアファイルがプレゼントされ、さらに来場者の中から抽選で公式サッカーボール、両チームの選手のサインが入ったフェアプレイフラッグ、サイン入りトレーニングウエアなどがプレゼントされました。

学友会との交歓会開催

12月4日母校食堂棟で、学友会の学生諸君を招き交歓会が開催されました。

落合学長をはじめ、学生部長・学生課の担当者をお迎えし、学生対象の功労者表彰を行いました。100名近い出席者の中、表彰は学友会委員長の太田君をはじめとして8名の学友会役員と、クラブ活動で全国1位に輝いた少林寺拳法部の永田さん、永棟さんの合計10名が今年度の功労者として表彰されました。賞状と記念品が平野会長より一人一人に手渡され、大きな拍手により称えられました。その後、立食パーティーに移り校友会役員と学友会の役員による交歓会に盛り上がりました。礼儀正しく、素直な後輩を目にし追手門学院大学の益々の発展を実感しました。参加者全員による自己紹介もあり校友会側からは昔話とともに励ましの言葉も熱く語られ、大変有意義なひと時を過ごすことが出来ました。

10年度春学期末学位授与式が挙行されました

9月28日（火）午前10時30分より、10年度春学期末学位授与式が、1号館3階第5会議室にて、挙行されました。

追手門学院歌斉唱、学位記授与の後、落合学長より式辞が述べられました。校友会からは卒業記念として学部卒業生45名に、平野会長から『卒業アルバム』を贈呈しました。引き続いて、食堂2階で、教育後援会主催の卒業謝恩パーティーが開催され、盛況の内に卒業生たちは巣だって行きました。

2010年度校友会総会を開催

10月31日（日）午前11時より、大学食堂棟3階において、2010年度校友会総会を開催いたしました。平野会長の挨拶の後、議案審議に移り、2009年度事業報告・決算報告、次に2010年度事業計画並びに予算の説明報告が行われました。

ホームカミング・デー開催！

10月31日（日）正午より、大学食堂棟1階にて、ホームカミング・デーが開催されました。台風の影響で、あいにくの天気でしたが、

約250名の皆様にご参加いただきました。

会場では、還暦者紹介、ガンバ大阪の観戦チケットが当たるジャンケン大会等が行われる中、アメリカ民謡研究部ＯＢの『マインズ)』と『きたむらいづみ&スイートグラスフレンズ』によるコンサートも華やかに行われ、盛況のうちに終了いたしました。

また、同日、校友会館・将軍山会館にて開催されている『学生交換制度日印40周年・日豪30周年記念展示』にも多くの方々が、足を運んでおられました。

来年も多数の皆様が、ご参加くださいますようお願いいたします。

支部長会を開催しました

10月31日（日）のホームカミングデー終了後、13時30分から、校友会館・将軍山会館2階会議室において、支部長会を開催いたしました。支部からは、九州支部・岩崎支部長、京都支部・岡支部長が、本部からは、平野会長を始め6名の役員が出席して行われました。

会議の中では、両支部長から、支部運営の活動や現状が報告され、支部運営の問題点や本部からのサポート体制等に関しての意見交換を行いました。引き続いて、今後とも地域支部の活性化を図って行くこととなりました。

10年度心理学科同窓会の報告

10月31日の日曜日に本学キャンパスで開催されたホームカミングデーに合わせて、心理学科の同窓生の集いを本年度も開くことができました。ホームカミングデーの行事の後、2号館の2305教室にご参集いただきました。前日の台風の影響と当日も午後からは雨という天候にもかかわらず、卒業生33名にご参加いただけまして、学科としてはうれしく思っている次第であります。今回は1982年卒業の方が9名も参加しておられました。

最初に井上先生から、この1年を振り返っての大学や学科の変化を中心とした報告をおこない、それに続けて、既に退任された先生方の近況を報告いたしました。小花和、樋口両先生はいただいたメールによる紹介で代え、西川先生には直接お話しをいただきました。さらに、3名の卒業生の近況報告をいただいております。

また、志水、藤本の両先生には今年度でご退任が予定されており、折角の機会ですからそれぞれにお話しをいただき、さらに西川先生のご提案で、参加していただいた卒業生全員の方々からも短い近況報告をしていただけました。

近況報告のなかで、「今は心理学とは関係のない仕事をしているので……」という控えめな発言をされる方も少なからずおられましたが、心理学科を卒業された方々が社会の様々な方面に出ていかれていることこそ学科の宝であると考えておりますので、可能な機会にぜひご参加いただき、いろいろなお話をお聞かせいただきたいと考えております。

ソキウス第5回総会が開催！

社会学部支援同窓会ソキウスの第5回総会並びに懇親会が、昨年の10月31日（日）母校食堂棟3階、スタッフルームで開催されました。

12時から、開催されたホームカミングデイのパーティ終了後、場所を食堂棟の3Fへ移し、19名が出席して、第5回総会が開催されました。

今年度の総会では、昨年度の活動報告と決算承認、来年度の事業計画と予算案、

そして役員改選に伴い、新役員が選出されました。

〆野会長の挨拶の後、議事を進行し、総会は無事に終了しました。

今年は吉田先生・矢谷先生・善積先生にもご参加頂き、昨年三月に母校を退職された、吉田・矢谷両先生に、ご退職記念講演会の記録冊子をソキウスから贈呈させていただきました。

吉田先生から、長年顧問をされていた剣道部が、当日大阪での全国大会出場とあって、剣道部の応援用にお作りになられた「からりっと」と自筆の文字で染め抜かれた手拭いを、参加者全員に頂きました。

又、総会にご出席頂いたみなさんへは、両先生へ贈呈させていただいた講演会の記録冊子A4版をお渡しすることができました。これは講演会に参加頂いた皆さんにお渡ししようという事で200部作成しています。本来は、参加頂いた皆さん全員にお送りしたいところですが、ソキウスの会計事情もあり、総会にご出席頂いた方へ手渡しでと思っています。ご了承いただきますとともに、ぜひ今年の総会にご出席頂き、お受け取り頂きます様お願いいたします。

日々発信しているソキウスブログもぜひご覧ください。

http://space.geocities.yahoo.co.jp/gl/socius_ogu2006

【メルマガ登録のお願い】

校友会や母校の最新情報が定期的に配信されている、メールマガジンの登録をお願いします。

メルマガは携帯電話での受信を中心に発信していますがパソコンで受信可能です。

登録の前に次の2つのメールアドレスを指定受信設定してください。

info@ogu-koyukai.com
mm-info@ogu-koyukai.com

設定完了後QRコードを携帯電話で読み込み、インターネットに接続して新規登録をお願いします。

パソコンと携帯両方が登録できます。

QRコード不可の場合は次のアドレスより登録お願いします。

http://ogu-koyukai.com/script/member_regist.php

登録変更用のアドレス・パスワードと共に登録完了メールが届きますから大事に保存お願いします。

届かない場合は、メールアドレスの入力ミスか指定受信登録のミスです。校友会事務局にメールで問い合わせてください。

携帯指定受信の方法がわからないときは携帯電話のショップにお尋ねください。

ホームカミングデイの日に初代学長天野利武先生の銅像に献花いたしました。

出版書籍紹介

「ゴールドコーストの恋人たち」西部開拓年代誌①
4800円＋税
編集工房ノア　天野元先生

「130カ国自転車旅行」
880円＋税
文春新書　中西大輔氏

編集後記

広報委員会・キャリア開発支援委員会の方々は、皆様大変お忙しい方ばかりで、集合写真を記念に取ろうとしても叶わぬ程です。しかしながら、母校の職員の方も含め、全員に何か一つは必ず仕事をしていただき、全員でこの会報やキャリア支援の仕事をこなしました。

ご協力賜りました、母校学院の教職員の皆様・後輩在校生の皆様・校友の皆様方に、この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

集合写真ではありませんが、委員会全員の写真を記念にご案内いたします。（Ni）